

「国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点による授業改善」公開授業

2017.1.31

於：小牧南高校

13:20～16:10

1 講話「アクティブ・ラーニングによって何が変わるのか」（小牧南高校 校長 小塩卓哉）

2 公開授業

14:20～15:10 於：視聴覚教室（本館棟4階）

授業者：池山朋花 古典B（2年3組 文系スタディクラス）

授業内容：「鴻門之会 剣舞」の場面を班ごとに登場人物の心情を考えて脚本化したものについて、劇形式の発表及び記者会見を行い、相互評価する。

授業者反省：

生徒の活動や意欲がこちらの予想を越えていた。例えば劇形式の発表では、脚本を見ないで台詞を言ったり大きな声で堂々と発表したりするなど工夫しており、練習の様子からは想像できないほどの発表を見せてくれた。また、記者会見の場面も平凡になるかと危惧していたが、こちらが思いつかないような質問をし、答える側も補助資料の知識を用い、登場人物になりきって答えていた。

このように生徒の違った一面を見ることができたと同時に、これだけの力を持っていたのか、と驚かされる授業であった。生徒の生き生きとした姿を見ることができたことがうれしく、主体的、協働的な点ではとても良かった。しかし一方で、国語としての学びという点では、どこまで目標に迫れたのかは、本時だけでは分からない。脚本化の本来の目的をどこまで生徒が意識して活動できたのか、次時で振り返りをしたい。

3 パネルディスカッション

「アクティブ・ラーニングによる国語科授業改善 小牧南高校の取組をめぐって」

15:15～16:10 於：視聴覚教室（本館棟4階）

○教員の声ほとんどないことが、アクティブ・ラーニングの仕掛け

- ・司会も生徒が行うことで、やわらかな雰囲気生まれ、恥ずかしがる生徒も発言できる。
- ・枠をあまり当てはめず、フリーの部分を与えて、うまくコントロールする。そのためには、しっかりと教材研究が必要。
- ・活動から学びへつなげる。例えば他班を評価する際、「5」を付けるのであればその根拠まで結び付けていないのが残念だった。
- ・生徒が活動に馴れてくると、かける時間ももっと短くできる。

○記者会見について

- ・本文に書いていないことを質問し、生徒が答えることで、読みが深まる。気づいていない生徒が気づく機会にもなる。

- ・自分はこのように読んだ、というものがあるからこそ、自分との比較ができ、分からないところを質問する。2つの班が発表したことで比較もできる。

- ・記者会見の質問が易しかった。「本当にそうですか？」と言える生徒がいると、学びの深さが出てくる。

○その他

- ・アクティブ・ラーニングによって教員の負担が大きいのはいけない。持続可能にする。授業案をそのまま共有していても良い。